

## “Crude Oil Hike, Global Inflation, and Yen Depreciation”

Fabio Natalucci (金融資本市場局副局長)

2022年は、インフレが世界各国に蔓延している。その背景には、エネルギー価格と商品価格の上昇があり、ボラティリティも高まっている。企業の決算報告や家計へのサーベイや金融市場のデータからも、期待インフレ率は高い水準に留まっている。

そうした背景の中、世界各国の中央銀行は2021年中ごろからは金融引き締めを舵を切った。この12カ月で、日本を除くG10全ての国で1%~3%の金利を引き上げていて、政策金利がまだ上昇することが期待されている。

2022年のグローバル経済成長率はプラスになることが予想されているが、マイナスになるリスクも高まっている。2022年の金融市場のボラティリティが高まる中、株式市場も債券市場も第三四半期までマイナスのリターンである。特に米国の株式市場(S&P500)の直近(8月~10月)の二カ月の下落率は、過去30年間でも最大級である。

また、2022年の米国ドルは、G10の全ての国と、ブラジルとメキシコを除く新興国に対しても大きくドル高となっている。その中でも、特に日本円に対する増価は顕著である。ただ、日本円の実効実質レートで見ると、日本円の下落は90年代中期からの長期トレンドでもある。円安の原因を考察すると、多くの理由の中でも、内外金利差と輸入額に占めるエネルギー資源の割合の上昇があげられる。

最後に、新興国の近況についても時間があれば詳しく説明をする。

(英文発表資料の要約、文責・吉田裕司)